

助成金の種類 (該当に□)	<input type="checkbox"/> 移住定住交流 <input checked="" type="checkbox"/> がんばる地域(ウ 一般) <input type="checkbox"/> アドバイザー	事業概要書（別紙①-1）
事業名	いっぺかだれや推進事業	都道府県 市町村名

地域の概要・実施主体		写真等
地域概要	石狩市浜益区は、旧浜益村として平成17年、旧石狩市、旧厚田村と市町村合併した地域であり、現在の人口は合併時より半減し、1,000人を切り、高齢化率は6割近くになっている。主な産業は漁業、農業であるが、いずれの分野でも担い手が不足している。また、民間事業者によるバス路線の廃止、個人商店の閉業、歯科医院の撤退など、地域の暮らしの課題は多く、総合的に課題を解決する方策が求められている。	住民による対話の場「いっぺかだれやの会」の様子 

事業について		事業の評価
目的	合併後20年を経て、人口が半減、高齢化率も6割近くになっている当地域で、縮小する地域社会の将来のあり方として「共助による支え合いの地域モデルの構築」に向け、新たなまちづくりの実証や人材の育成を行い、住民主体の新たな地域運営の仕組みづくりを行う。	効果 ・多岐に渡る課題を個々に見るのではなく、総合的な解決に向けて考えていくことで、効率的な地域づくりを進めることができる。 ・「地域運営組織」が生まれることにより、人口半減分の地域でも、地域住民が得意なことでもちづくりに主体的に参加することや、関係人口の創出で補い、効率的な地域運営が可能となる。
PRポイント	高齢化率の高い当該地域において、地域の若者が、地域のためにと様々な取り組みを始めている。連動して札幌のNPO法人と関係人口の取り組みも活発で地域との関係性も深まっており、地域住民を巻き込みながらまちづくりのわがごと化の機運が高まっている。昨年度は、大事にしたいことを憲章としてまとめ、R8は実践する初年度となっている。	継続性・発展性 当初から行政は伴走役となり、地域住民による「対話」の場づくり、若者、地域住民他関係団体との連携を進めてきた。今まで地域で続けてきた共助による支え合いの基盤を継承しながら地域運営組織を設立することにより、公共施設の管理運営の受託が可能になり、子どもの居場所づくりや買い物支援サービスなどの仕組み作りが期待される。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民による対話の場「いっぺかだれやの会」の開催 ※いっぺかだれやとは…浜益弁で「いっぱい集まろう、語ろう」の意味。 令和6年度より実施している対話の場の継続。地域住民が地域課題を「自分事」として捉え、共助による課題解決の仕組みを創出する。 ・地域コーディネーター「カダレーター養成講座」の実施 まちづくりをけん引する人材育成の講座の実施 ・関係人口創出及び地域人材発掘のため「一人一看板講座」を実施 一人一つ「自分の得意」を看板に掲げ、地域で活躍する人材の発掘と育成。 ・地域運営組織設立に向けた先進地視察・勉強会の実施 	モデル性 札幌市から2時間ほどにありながら超限界集落を抱えるという課題先進地であるという特性と「行政が主導」するのではなく、地域住民の自発性により、関係人口と行政が密に連携し、地域住民と「対話」しながらまちづくりを進めてきた稀なケースであると思われる。対話から生まれた「いっぺかだれや憲章」など、モデル性は高い。 新規性 当初から都市部のNPO法人が中間支援組織として参画し、共同でもちづくりを行うケースは少ないと思われる。官民連携し事業を行っているが、あくまで地域の声を大事にすることを最優先に、じっくりと対話からはじめ、話し合いを深めた点や関係人口との関係性も深く、長く関わって進めている点が新規性と思われる。